

ミニ企画展

野口白汀展

（ごあいさつ）

私たちの郷土熊谷は、県北における政治・文化の中心都市として発展してきました。中でも芸術の分野をみると、近代以降、日本を代表する数多くの作家を生みだしてきた街であるといえるでしょう。そうした作家・書家の一人に野口白汀が挙げられます。

氏は昭和六年に熊谷市に生まれ、昭和二八年には現代書の大家であった松井如流に師事、自身の書に対する才能を開花させていきました。

そして一躍注目を浴びるきっかけとなった作品は、昭和四五年、三九歳のときに毎日書道展において発表した「随」の大書です。この作品で準大賞を受賞、書人としての登竜門を駆け上がりました。さらに美術展覧会の最高峰の一つである日展では、昭和四九年に「清虚」で、昭和五七年に「題宣州開之寺水閣」で二度の特選を受賞、その後日展審査員、評議員となり、まさに日本書道界をリードする存在となりました。

また後進への指導にも力を入れ、大東文化大学では約四〇年間教鞭をとり、定年後は名誉教授となりました。そして筆圧や書風に関する研究論文、高等学校用教科書の執筆、書に関する一般書の執筆など、「書の世界」を探究し、多くの人々に広めていくことにも尽力しました。NHKの番組タイトルへの揮毫なども、氏の作品を身近に感じることができた一つのきっかけでした。

この他にも氏の書道界への功績はまだまだ多岐に渡り、今後も日本書道界の重鎮として、自らの境地を開く作品を今後も多数発表することを期待されておりましたが、平成一九年に突然の病により七六歳の生涯を閉じることとなりました。

今回展では、平成二四年に開催された遺墨展後に当館にご寄贈いただいた作品を中心に展示いたします。一字書から多字書まで、その字や言葉の持つ意味そして雰囲気、氏の独自の感性によって表現した作品は、書でありながら絵画としての趣を持つ、素晴らしい作品となっております。これらの作品から、氏の書に対する飽くなき探求心と氏の精神力、力強さと静謐さを感じていただければ幸いです。

会期 平成二六年九月九日（火）

～ 一二月一四日（日）

時間 午前九時～午後五時

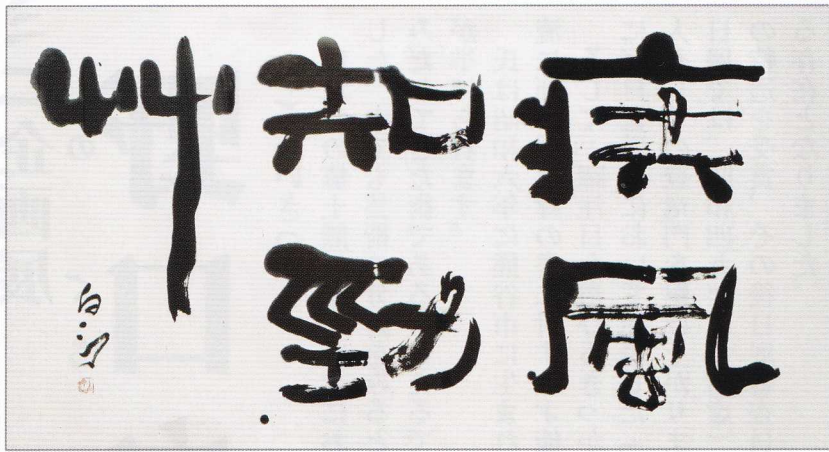
〔休館日 毎週月曜日（祝日を除く）、9/16、9/24、10/3、7/9、14、11/4、7、25、12/5〕

会場 熊谷市立熊谷図書館

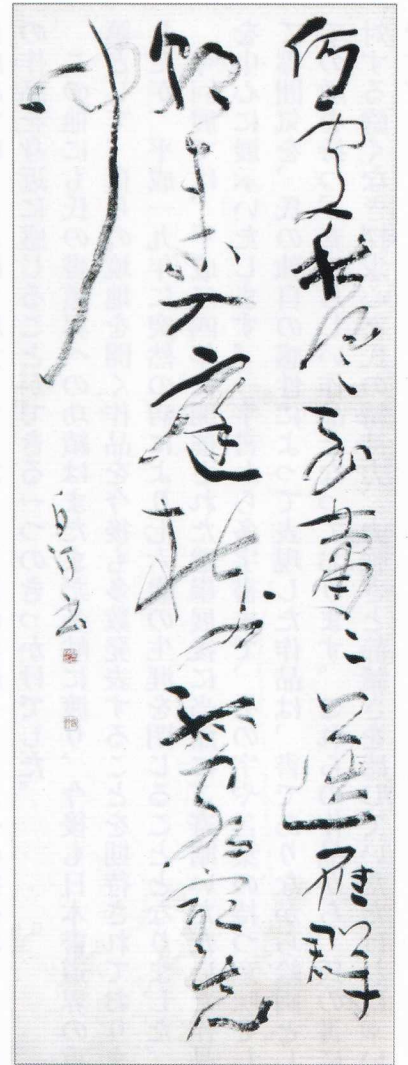
三階 郷土資料展示室

主催 熊谷市立熊谷図書館 住所 熊谷市桜木町二二三一二





疾風知勁草



秋風引 昭和48年 第5回日展



無為 平成11年 第31回日展



齊 平成5年 個展 (華甲記念)



龍雲